（別添資料１）

事業所名　ひまわりくらぶ第３教室

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日　7 年　3 月　1 日

法人（事業所）理念		子どもの目線で見て子供の立場で考え，個の療育的ニーズに応じた支援を行う。			
支援方針		１．基本的な生活習慣を身につける支援を行う。 ２．社会性やコミュニケーションの力を高め，集団への参加につなげる。 ３．将来的な自立に向け，自分で決め，自分でできる力を育てる。			
営業時間		14 時 0 分から 17 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり	
		支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	１．基本的な生活スキルの獲得　：排泄，食事，衣服の着脱等の視覚的支援の提示や反復練習を行います。 ２．健康状態の維持・改善　：体温計測，顔色や皮膚状態等の確認により健康状態や体調の変化の有無を確認します。 ３．生活リズムや生活習慣の形成　：食事前・排泄後の手洗い，定時排泄の支援等により必要な場面での主体的取組み定着を図ります。			
	運動・感覚	１．姿勢と運動・動作の基礎的技能の向上　：体操や運動，サーキット運動などを通して，立位や着座の正しい姿勢を意識できるようにしたり身体の柔軟性を高めたりします。 ２．感覚の特性への対応　：聴覚過敏などに対して，音源調整や強い声や音との適切な距離の確保などを行うことで，過剰な刺激を軽減して安心できる環境をつくります。			
	認知・行動	１．感覚や認知の活用　：制作活動において注視する，触れる，聴き分ける，描く，切るなどの活動を通して，視覚・聴覚・触覚などの保有する感覚機能の向上を図ります。 ２．認知の偏りへの対応　：見るべき対象の焦点化や活動の順番の提示などにより，視覚的情報を手掛かりにして主体的な取り組みができるようにしていきます。 ３．行動障害への予防及び対応　：行動問題に対して，問題の起点となる要因を調整し環境を整えることで，コミュニケーション障害を軽減し，成功体験を増やします。			
	言語 コミュニケーション	１．言語の形成と活用　：作文や感想発表などを通して，具体的な事物や体験と言葉を結び付けたり文で表したりすることで，内言語の表出やイメージの言語化を図ります。 ２．受容言語と表出言語の支援　：しりとりなどの言葉遊びを通して，楽しく言葉をやり取りし，言葉のやり取りを生活全般に広げるための意欲と基礎的な能力を育てていきます。 ３．人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ：　：テーマに対して意見を出し合い相談する活動などを通して，相手の言葉を理解して共感したり，自分の意見との違いを伝えたりする力を育てます。			
	人間関係 社会性	１．一人遊びから共同遊びへの支援　：①一人遊び，②並行遊び，③連合遊び，④共同遊びへと発展させ，集団における他者との上手な関わり方ができるように支援していきます。 ２．自己の理解とコントロールのための支援：自分の行動の特徴を理解できるように支援し，競争や協力などの場面で，大人の協力を得ながら気持ちや情動を調節できる力を育てます。 ３．集団への参加のための支援　：鬼ごっこやトランプなどの集団遊びを通して，集団遊びに参加するために必要な手順やルールを理解し，参加できるように支援します。			
家族支援		１．家庭からの相談に対して助言を行います。 ２．障害特性に配慮したよりよい家庭環境づくりのための助言を行います。 ※必要に応じて，園や学校，相談支援専門員などの関係機関と情報を共有して支援の充実を図ります。	移行支援	１．スムーズな移行につなげるために相談支援専門員と連携して情報の共有を行います。 ２．移行先の関係機関の助言や支援体制づくりを行うことでスムーズな移行ができるようにしていきます。 ※支援目標や支援方法等の共有や留意事項の伝達，子どもの情報や保護者の希望等について移行先への伝達を行います。	
地域支援・地域連携		１．相談支援専門員と個別の支援計画の情報を共有して連携を図ります。 ２．関係機関と情報を共有し，連携しながら支援を行います。 ※学校，相談支援専門員などとの情報共有や調整，個別のケースに対する検討会議への出席，等	職員の質の向上	１．事業所において，療育の目的や取り組み，感染症対策，虐待防止，身体拘束の禁止などの研修を行います。 ２．災害の種類に応じた避難訓練を行うことで，災害発生時の安全な対応ができるようにします。	
主な行事等		節分（豆まき），　七夕（願いごと・飾りづくり），　夏祭り（輪投げ，風船釣りゲームなど），　ハロウイン（仮装グッズ作り，飾り，歌など），　クリスマス（ツリーづくり，飾り付け）　年末（新年カレンダー作り）			

（別添資料１）

事業所名　ひまわりくらぶ第３教室

支援プログラム（児童発達支援）

作成日　7 年　3 月　1 日

法人（事業所）理念	子どもの目線で見て子供の立場で考え，個の療育的ニーズに応じた支援を行う。			
支援方針	１．基本的な生活習慣を身につける支援を行う。 ２．社会性やコミュニケーションの力を高め，集団への参加につなげる。 ３．将来的な自立に向け，自分で決め，自分でできる力を育てる。			
営業時間	10 時 0 分から 12 時 30 分まで		送迎実施の有無	あり
	支　援　内　容			
本人支援 健康・生活	基本的な衛生習慣が習得できるように、手洗いや歯磨き、トイレの使い方など日常生活で必要となる衛生スキルを習得できるように支援をおこないます。また、食事の際に必要な道具の使い方（箸やスプーン、フォークを使う）ことなども個別課題のなかで工夫しながら取り組んでいきます。規則正しい生活リズムや睡眠の大切さなどは保護者に助言を行っていきます。			
本人支援 運動・感覚	基礎的な運動能力の向上を図るために、走る、跳ぶ、歩く、転がる、バランスをとるなど、身体を使った基本的な運動を活動の中に入れていきます。また、手と足を使った協調運動や手先の細かい動きを必要とする運動を通じて、運動能力を発展させ、身体全体を上手に使う力を養います。感覚を支援するために、水遊び。色んな素材を触る感覚遊びや音の認識、視覚的な手がかりの理解を取り入れた感覚に関する課題を取り入れることで、過剰な刺激や不足する刺激への反応を調整していきます。			
本人支援 認知・行動	こどもが集中して課題に取り組めるように環境設定を行っていきます。個別課題の中で短時間でのタスクに取り組む練習、注意を必要とするゲームや活動（パズル、積み木、絵本の読み聞かせなど）を通じて、集中力を育てます。また、視覚的又は聴覚的な指示を使って、注意をひきつけ、維持することも行っていきます。他のこどもたちと一緒に遊ぶ中で、ルールを守ってゲームを進めるスキルを学びます。これにより、集団遊びを通じ、他者と協力しあう関係を築く力を育てます。			
本人支援 言語コミュニケーション	こどもが日常生活で使う語彙を増やすために、絵本の読み聞かせや、身近な物や状況を指差して名前を教えたり、簡単な質問を通じて新しい単語を覚えられるようにします。また、ジェスチャーや顔の表情を使い、非言語的表現を通じて、意思疎通を学べるようにしていきます。家庭でのコミュニケーションの方法をともに考え、家庭と事業所が連携して支援を行います。			
本人支援 人間関係社会性	基本的な挨拶を使う練習を行いながら、基本的なスキルを身に付けるとともにグループ活動や遊びの中で、順番を待つことや順番に何かをすることを学びます。相手の表情や行動をみて、その子の気持ちに寄り添えるように、困っている時には声をかけたり、喜んでいる時には一緒に喜ぶなど共感する力を養います。			
家族支援	１．家庭からの相談に対して助言を行います。 ２．障害特性に配慮したよりよい家庭環境づくりのための助言を行います。 ※必要に応じて，園や学校，相談支援専門員などの関係機関と情報を共有して支援の充実を図ります。		移行支援	１．保育園や学校へのスムーズな移行につなげるために相談支援専門員と連携して情報の共有を行います。 ２．移行先の園や学校への助言や支援体制づくりを行うことでスムーズな移行ができるようにしていきます。 ※支援目標や支援方法等の共有や留意事項の伝達，子どもの情報や保護者の希望等について移行先への伝達を行います。
地域支援・地域連携	１．相談支援専門員と個別の支援計画の情報を共有して連携を図ります。 ２．園や学校などの関係機関と情報を共有し，連携しながら支援を行います。 ※園や学校，相談支援専門員などとの情報共有や調整，個別のケースに対する検討会議への出席，等		職員の質の向上	１．事業所において，療育の目的や取り組み，感染症対策，虐待防止，身体拘束の禁止などの研修を行います。 ２．災害の種類に応じた避難訓練を行うことで，災害発生時の安全な対応ができるようにします。
主な行事等	節分（豆まき），　七夕（願いごと・飾りづくり），　夏祭り（輪投げ，風船釣りゲームなど），　ハロウイン（仮装グッズ作り，飾り，歌など），　クリスマス（ツリーづくり，飾り付け）　年末（新年カレンダー作り）			

（別添資料１）

事業所名　ひまわりくらぶ第２教室

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日　7 年　3 月　1 日

法人（事業所）理念	子どもの目線で見て子供の立場で考え，個の療育的ニーズに応じた支援を行う。			
支援方針	１．基本的な生活習慣を身につける支援を行う。 ２．社会性やコミュニケーションの力を高め，集団への参加につなげる。 ３．将来的な自立に向け，自分で決め，自分でできる力を育てる。			
営業時間	14 時　0 分から　17 時　30 分まで		送迎実施の有無	あり
	支　援　内　容			
本人支援　健康・生活	１．基本的な生活スキルの獲得　：排泄，食事，衣服の着脱等の視覚的支援の提示や反復練習を行います。 ２．健康状態の維持・改善　：体温計測，顔色や皮膚状態等の確認により健康状態や体調の変化の有無を確認します。 ３．生活リズムや生活習慣の形成　：食事前・排泄後の手洗い，定時排泄の支援等により必要な場面での主体的取組み定着を図ります。			
本人支援　運動・感覚	１．姿勢と運動・動作の基礎的技能の向上　：体操や運動，サーキット運動などを通して，立位や着座の正しい姿勢を意識できるようにしたり身体の柔軟性を高めたりします。 ２．感覚の特性への対応　：聴覚過敏などに対して，音源調整や強い声や音との適切な距離の確保などを行うことで，過剰な刺激を軽減して安心できる環境をつくります。			
本人支援　認知・行動	１．感覚や認知の活用　：制作活動において注視する，触れる，聴き分ける，描く，切るなどの活動を通して，視覚・聴覚・触覚などの保有する感覚機能の向上を図ります。 ２．認知の偏りへの対応　：見るべき対象の焦点化や活動の順番の提示などにより，視覚的情報を手掛かりにして主体的な取り組みができるようにしていきます。 ３．行動障害への予防及び対応　：行動問題に対して，問題の起点となる要因を調整し環境を整えることで，コミュニケーション障害を軽減し，成功体験を増やします。			
本人支援　言語 コミュニケーション	１．言語の形成と活用　：作文や感想発表などを通して，具体的な事物や体験と言葉を結び付けたり文で表したりすることで，内言語の表出やイメージの言語化を図ります。 ２．受容言語と表出言語の支援　：しりとりなどの言葉遊びを通して，楽しく言葉をやり取りし，言葉のやり取りを生活全般に広げるための意欲と基礎的な能力を育てていきます。 ３．人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ：　：テーマに対して意見を出し合い相談する活動などを通して，相手の言葉を理解して共感したり，自分の意見との違いを伝えたりする力を育てます。			
本人支援　人間関係 社会性	１．一人遊びから共同遊びへの支援　：①一人遊び，②並行遊び，③連合遊び，④共同遊びへと発展させ，集団における他者との上手な関わり方ができるように支援していきます。 ２．自己の理解とコントロールのための支援：自分の行動の特徴を理解できるように支援し，競争や協力などの場面で，大人の協力を得ながら気持ちや情動を調節できる力を育てます。 ３．集団への参加のための支援　：鬼ごっこやトランプなどの集団遊びを通して，集団遊びに参加するために必要な手順やルールを理解し，参加できるように支援します。			
家族支援	１．家庭からの相談に対して助言を行います。 ２．障害特性に配慮したよりよい家庭環境づくりのための助言を行います。 ※必要に応じて，園や学校，相談支援専門員などの関係機関と情報を共有して支援の充実を図ります。		移行支援	１．スムーズな移行につなげるために相談支援専門員と連携して情報の共有を行います。 ２．移行先の関係機関の助言や支援体制づくりを行うことでスムーズな移行ができるようにしていきます。 ※支援目標や支援方法等の共有や留意事項の伝達，子どもの情報や保護者の希望等について移行先への伝達を行います。
地域支援・地域連携	１．相談支援専門員と個別の支援計画の情報を共有して連携を図ります。 ２．関係機関と情報を共有し，連携しながら支援を行います。 ※学校，相談支援専門員などとの情報共有や調整，個別のケースに対する検討会議への出席，等		職員の質の向上	１．事業所において，療育の目的や取り組み，感染症対策，虐待防止，身体拘束の禁止などの研修を行います。 ２．災害の種類に応じた避難訓練を行うことで，災害発生時の安全な対応ができるようにします。
主な行事等	節分（豆まき），　七夕（願いごと・飾りづくり），　夏祭り（輪投げ，風船釣りゲームなど），　ハロウイン（仮装グッズ作り，飾り，歌など），　クリスマス（ツリーづくり，飾り付け）　年末（新年カレンダー作り）			

（別添資料１）

事業所名　ひまわりくらぶ第２教室

支援プログラム（児童発達支援）

作成日　7 年　3 月　1 日

法人（事業所）理念	子どもの目線で見て子供の立場で考え，個の療育的ニーズに応じた支援を行う。			
支援方針	１．基本的な生活習慣を身につける支援を行う。 ２．社会性やコミュニケーションの力を高め，集団への参加につなげる。 ３．将来的な自立に向け，自分で決め，自分でできる力を育てる。			
営業時間	10 時 0 分から 12 時 30 分まで		送迎実施の有無	あり
	支　援　内　容			
本人支援 健康・生活	基本的な衛生習慣が習得できるように、手洗いや歯磨き、トイレの使い方など日常生活で必要となる衛生スキルを習得できるように支援をおこないます。また、食事の際に必要な道具の使い方（箸やスプーン、フォークを使う）ことなども個別課題のなかで工夫しながら取り組んでいきます。規則正しい生活リズムや睡眠の大切さなどは保護者に助言を行っていきます。			
本人支援 運動・感覚	基礎的な運動能力の向上を図るために、走る、跳ぶ、歩く、転がる、バランスをとるなど、身体を使った基本的な運動を活動の中に入れていきます。また、手と足を使った協調運動や手先の細かい動きを必要とする運動を通じて、運動能力を発展させ、身体全体を上手に使う力を養います。感覚を支援するために、水遊び。色んな素材を触る感覚遊びや音の認識、視覚的な手がかりの理解を取り入れた感覚に関する課題を取り入れることで、過剰な刺激や不足する刺激への反応を調整していきます。			
本人支援 認知・行動	こどもが集中して課題に取り組めるように環境設定を行っていきます。個別課題の中で短時間でのタスクに取り組む練習、注意を必要とするゲームや活動（パズル、積み木、絵本の読み聞かせなど）を通じて、集中力を育てます。また、視覚的又は聴覚的な指示を使って、注意をひきつけ、維持することも行っていきます。他のこどもたちと一緒に遊ぶ中で、ルールを守ってゲームを進めるスキルを学びます。これにより、集団遊びを通じ、他者と協力しあう関係を築く力を育てます。			
本人支援 言語コミュニケーション	こどもが日常生活で使う語彙を増やすために、絵本の読み聞かせや、身近な物や状況を指差して名前を教えたり、簡単な質問を通じて新しい単語を覚えられるようにします。また、ジェスチャーや顔の表情を使い、非言語的表現を通じて、意思疎通を学べるようにしていきます。家庭でのコミュニケーションの方法をともに考え、家庭と事業所が連携して支援を行います。			
本人支援 人間関係社会性	基本的な挨拶を使う練習を行いながら、基本的なスキルを身に付けるとともにグループ活動や遊びの中で、順番を待つことや順番に何かをすることを学びます。相手の表情や行動をみて、その子の気持ちに寄り添えるように、困っている時には声をかけたり、喜んでいる時には一緒に喜ぶなど共感する力を養います。			
家族支援	１．家庭からの相談に対して助言を行います。 ２．障害特性に配慮したよりよい家庭環境づくりのための助言を行います。 ※必要に応じて，園や学校，相談支援専門員などの関係機関と情報を共有して支援の充実を図ります。		移行支援	１．保育園や学校へのスムーズな移行につなげるために相談支援専門員と連携して情報の共有を行います。 ２．移行先の園や学校への助言や支援体制づくりを行うことでスムーズな移行ができるようにしていきます。 ※支援目標や支援方法等の共有や留意事項の伝達，子どもの情報や保護者の希望等について移行先への伝達を行います。
地域支援・地域連携	１．相談支援専門員と個別の支援計画の情報を共有して連携を図ります。 ２．園や学校などの関係機関と情報を共有し，連携しながら支援を行います。 ※園や学校，相談支援専門員などとの情報共有や調整，個別のケースに対する検討会議への出席，等		職員の質の向上	１．事業所において，療育の目的や取り組み，感染症対策，虐待防止，身体拘束の禁止などの研修を行います。 ２．災害の種類に応じた避難訓練を行うことで，災害発生時の安全な対応ができるようにします。
主な行事等	節分（豆まき），　七夕（願いごと・飾りづくり），　夏祭り（輪投げ，風船釣りゲームなど），　ハロウイン（仮装グッズ作り，飾り，歌など），　クリスマス（ツリーづくり，飾り付け）　年末（新年カレンダー作り）			